

# こすもす通信



No.107

今年はコスモス会が誕生して  
20年



2013年4月 コスモス会

〒880-0805

宮崎市橘通東2丁目4-6 古賀ビル2F

TEL&Fax 0985-89-0336

E-Mail [cosmos-ciao@jupiter.ocn.ne.jp](mailto:cosmos-ciao@jupiter.ocn.ne.jp)

<http://miyazaki-cosmos.jimdo.com/>

## 新しい家族の方が半数に・・・親の会例会4月13日（土）



半数が今年1月以降に入会された方という顔ぶれになりました。  
やっとここにたどり着いて来られたんだなあ～、少しでもほっとしてもらえたらと、甘いお菓子を  
用意しますが、食べる間も惜しいというようにみんなの思いが溢れだします。



そんな中、出てきたのが『父親がいる時は部屋から出ない』『父親とは一緒にいても口も利か  
ない』などなど。

『父親はどういう思いで子どもを見、関わっているんだろう』と。

参加しているお父さんの感じ方も聞きながら。どうしても父親はちゃんと(!?)している自  
分と比較し情けない思いになる、だから子どもを責めることになるのでしょうか。母親も変わる  
けれども、父親も変わる。数々の失敗(?)を重ねながらも子どもの心に気づき、やがて理  
解し、支える父親に変わる姿は美しいですね。

“誕生日を迎える時期の子ども” “休学やその後の進路” 話しているとあっという間に時間が経ってしま  
います。その中に涙あり、笑いあり。親の会って不思議ですね。

今月の「こすもす通信」は高垣忠一郎さんのミニ講演（不登校の背景や親の会について）の抜粋と佐世保の青  
年中村秀治さんの文章を載せています。ぜひお読みください。

### 学校情報

### 勇志国際高等学校（広域通信制単位制高校）

自宅にてレポートを作成し、インターネットを活用

安い学費、負担の少ないスクーリング（短期集中スクーリング制）

年に1回だけ4泊5日（20歳以上の方は3泊4日）熊本県の本校（天草）でのスクーリングに参加し  
ます。

<http://www.yushi-kokusai.jp/>

### まとめの実行委員会

第8回社会的引きこもり支援者全国実践交流会 in 宮  
崎実行委員会

4月27日（土）13時～16時

宮崎市民文化ホール2階 会議室1

### 宮崎県母親大会

5月26日（日）佐土原町文化会館

コスモス会は子どもの分科会担当

物品販売を行います。

チラシと参加券（当日精算）を同封しています。

## ☆全国連絡会世話人代表高垣忠一郎さんによる小講演（要約抜粋）

### 私たちの社会が生み出したもの～子どもたちの背景



行きたいけれど、行けないという子どもたちが登場したのは1950年代終わりころでそこから50年以上の歴史がある。その子供たちが60年の高度経済成長とともに増えてきた。60年代に調べ始め、66年から数字がわかっている。70年代半ばまでは数字上では平らの状態。それが70年代半ばからは急激に増え始めた。

右肩上がりの高度成長が終わり、不況の時代に入る。不況の時代に入り、日本は生き残り競争が激しくなっていた。そのあおりを受けて子育て、教育にも競争原理が深く張り込むようになってきた。競争教育の激化とともに学校に行けない子どもがどんどん増えていった。「登校拒否・不登校」は社会や教育の大きな流れと切り離して考えることはできない。子どもの特性や親の子育てというよりも社会の原理によって子どもたちの成長、教育が圧迫を受けているということをとらえないと本質は見えてこない。

高度経済成長支えてきたエネルギーは石炭から石油へエネルギー革命が起き、炭鉱が閉鎖されていった。経済成長は石油で支えてきたが、オイルショックにより石油が来なくなり、原発へシフトしていった。それによって経済発展が走らされてきた。エネルギーだけでは経済発展はしない。それに必要なのは人材。その人材を学校教育で育てなさいと財界、国から要望がなされた。63年に経済発展における人的能力開発の課題と対策が経済審議会から出され、国の教育のレベルがひかれた。経済発展に必要な人材を育てなさいと言われた。教育の目的は人格の完成。人間を育てるということが教育なのに、教育の目的が、人材を育てることに変わってしまった。人間を育てるのと人材を育てるのは違う。人材は道具である。教育の流れがシフトしてしまったことにより「登校拒否・不登校」の子どもたちが増えている。（中略）

### 私自身のかかわり

自分は70年代半ばころから「登校拒否」と向き合い始めた。相談に来るのは大概が母親。父親は忙しいと言ってなかなか顔を出さなかった。ジェンダーの縛りもあり、子どもの問題は母親がなんとかしなければいけないという風習が強かった。母親が面接室に現れた時は必ず労をねぎらうようにしている。「大変だったでしょう、勇気がいったでしょう」と。精神科に来るのは勇気がいる。毎日学校に行かない子どもと向き合うのは大変である。それだけで母親は目を潤ませる。泣かしているのは私ではない、状況である。一緒に子どもを作った父親はなかなか理解してくれない。「子育てはお前に任せている、行けなくなったのはお前のせいだ」と言われる。また、姑にも孫が行けないのは嫁のせいだと思われる。近所を歩けなくなる人もいる。近所を歩いていると自分は子どもを不登校にしまったダメな母親ですという看板を背負って歩いている気持ちになってしまう。それぐらい負い目・罪悪感を引きずっている。そんな心で子どもと向き合ったら、子どもの心が元気になるわけがない。母親は針のむしろに座っているようなもの。それをゆるめてもらって、平穏でなごやかな心になってもらう、それがカウンセラーの仕事である。しかし共感的、受容的に受けいれてくれるカウンセラーばかりではなく、叱るような人もおり、しんどくなって帰ってきてしまう人もいた。そんな中で同じ気持ちを持つ親、当事者同士で支えあおうということから「親の会」が広まっていったのだと思う。

「親の会」を作る支援を行ってきた。それが今、「全国連絡会」という形で網の目のように広がってきたということだと思う。

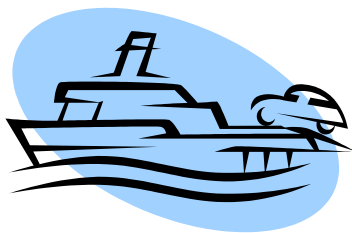
親は子どものために変わるのではなく、自分自身が自分のために主体的に生きられるような人間に変わる。親も自立の課題を抱えている。人間としてどんどん成長していかなければいけない。

「全国連」の使命は本当に自立した人間、大人になりあっていくのを支えあうのが使命ではないだろうか。この競争社会、子どもを追い立てている社会をもっと自由に生きることが出来る社会に。社会の一角で信じて待つという人間関係を、草の根のように少しずつ広げていく。それが「全国連」がやっていくことなのではないかと思う。

第18回登校拒否・不登校問題 全国のつどい in 帯広の実行委員会での講演要旨を実行委員会ニュースから転載しました。

## 『上五島での収穫』

佐世保市 中村秀治[青年]



僕は小中学校と不登校になり高校はなんとか行けましたが社会人になってからも引きこもりになりました。それから5年間、調子がよい時は外に出ることもありましたがほとんど家にこもりました。

それが2011年に東日本大震災のニュースをテレビで観てからボランティアに行きたいと思いはじめ、夏から冬にかけての3ヵ月間、宮城県にてボランティア活動をしました。佐世保の不登校・引きこもりを支援するフリースペース[ふきのとう]を知ったのが丁度去年の今頃。その年の夏には「全国のつどいin奈良」に行き、今年は宮崎の支援者交流会にも参加しました。

震災・原発事故で日本の情勢や価値観が揺れ動いたように、僕自身この2年で沢山の素晴らしい出会いや体験があり取り巻く環境が大きく変わったと感じています。

そして3月のつい先日ファイザープログラムから助成を受け、五島列島での研究支援を始められた山本耕平先生に同行するために上五島へと行きました。

上五島は正式には新上五島町と呼び、長崎本土から西へ60kmの所にある十字架の形をした島周辺が上五島になります(ぜひ地図を開いてみて下さい)僕は五島は今回初めての上陸であり、同行といっても特に研究・活動に参加するわけではありません。(でも、これは、当事者参加型リサーチという、すごい方法らしいです。)上五島の不登校・引きこもりの当事者のお話が聞けるということだったので、[ふきのとう]の山北真由美さんに誘われるとぜひ行きたいと申し出ました。

佐世保からフェリーに揺られること3時間、有川港に到着しました。上五島で過ごす4日間は、奈良で知り合った知人宅にホームステイ(一部の五島の人に言わせれば佐世保は海外だそうです)先生方の荷物運搬を手伝ったり、当事者としてのインタビューを受け、また別の当事者のインタビューの見学をさせていただきました。

耕平先生とともに研究に携わる院生の皆さんとも交流できました。なかなかできない体験ばかりで、とても新鮮でした。

しかし、僕は上五島に来るまで耕平先生達がされてる研究自体の内容・手順はもとより他の多くのことや、離島の抱える問題を全く把握していませんでした。島は狭く人の目にさらされ噂話も広まりやすく、引きこもりの当事者はなかなか外に出にくい環境であること。また心の病気を抱えた方は別の島の病院へ行くという人も少なくありませんでした。五島列島に限ったことではないと思いますが、島での不登校・引きこもりの問題を解消していく地域づくりは大変厳しく生半可な気持ちでは、とても続けられないと先生方の活動をそばで見、お話をお聞きし痛感しました。

僕にとって同行の最終日、先生方一行は上五島の有川郷にある地域活動支援センター[いろえんぴつの家]の利用者にお話を伺いに、そこへお邪魔いたしました。お話されたのは一部の利用者で、先生は一人一人に生い立ちから今に至るまでの経緯など淡々とインタビューされていました。病気による引きこもりを経験された方もいました。自殺を考えた、或いは自殺未遂となった方の生々しいお話もありました。皆さん、[いろえんぴつの家]に通い同じような境遇の人たちと出会い、それぞれ個々のペースで自立に向け頑張っておられました。上五島になくてもならない場所だと思いました。ある方の「それでも今は大丈夫だが病気が再発してしまうのではないかと不安はあります。」という言葉に僕は反応してしまいました。

そしてある方は「[いろえんぴつの家]に通うようになり、生きてて良かったと思えるようになりました」と話しておられました。

お話を耳を傾けた後、耕平先生から同じ当事者として僕に感想を尋ねられました。皆さんの体験談を聞いて僕の中でフツフツと湧き上がるものがあり感想を述べました。後々考えるとそれは感想とはいええないものでした。

この2年間で外に出られるようになり生活が変わったとて、病気とは違いますが僕自身(また引きこもるのではない



か・・・?) という不安が強くなること。

引きこもればコミュニケーションがとれなくなるのではない?外に出るのが怖くなるのではない?他人を拒絶してしまうのではない?・・・などと、ふとした時に感じる時があること。

奈良の全国のつどいでも僕は同じような悩みを話しましたが、引きこもりの子を持つ親の方から「あなたは外に出られるようになってるのに、そんな不安を抱えてることが理解できない。」と言われました。確かに一歩も外に出られない人と比べたら、そんな悩みを持つこと自体がおこがましいことなのかも知れません。自分でも何とかしたいと思いつつも、どうしていいのかわかりません。ましてや[いろえんぴつの家]で話しても何の解決にもなりません。そう思っても声は止まりませんでした。そして『この人に出会えてよかった!』とは思えるが『生きてて良かった!』とはなかなか思えないこと。再度引きこもることへの不安と恐怖に、溢れた涙とがむしゃらに吐き出したいびつな言葉は、その場の空気をとて居心地の悪いものにかえたとします。

隣にいた耕平先生は落ち着いた声で、たった一言「安心して引きこもれや」と言いました。先生が冗談なのかまじめに言ってるのかわかりませんでした。ただ優しく穏やかな表情をしていました。

夕方になり先生方との名残を惜しむ間もなく、そのまま急いでフェリー乗り場へ。お世話になった知人に別れを告げ最終便のフェリーに乗り込みました。甲板に上がると上五島の山々を薄く色味がかかった西日が照らしていました。幾度も思い返される「安心して引きこもれや」という言葉。疑問を感じました。果たして「引きこもる」という行為はある意味で不安の最たるものではないだろうか・・・?それが本当に安心できる行為なのか?

それでも現に支援する方々は引きこもること自体を否定せず、当事者が安心して引きこもり、ゆっくり自立していくような居場所づくりを目指していらっしゃいます。(と思う。)そしてなお僕が引きこもりという暗い場所(僕の中のイメージ)に再び落ちて受け止めてくれる、ということなのでしょう。助ける!この山本耕平でなくとも長崎で山北真由美さんをはじめ心強い味方に沢山出会ったんや!だから安心せえ!引きこもっても大丈夫や!と言いたかったのではないだろうか?たとえ僕が今後引きこもるようになって、今は寄り添ってくれる方が周りに沢山いるのです。もしかすると当時ほど辛い思いはしないのかもしれませんが。この先辛いことがあっても『生きててよかった!』といつかは思いたい。先生の本心はわかりませんが、そう思えただけでもこの上五島に来れたのは本当に良かった。大きな収穫だと感じました。

出港を知らせるアナウンスと同時に船が大きく揺れて傾きました。(危ない!)僕はとっさに両手で手すりを握り、胸から上の体は海側へと前のめりになりました。あわてて客室に入って横になると、お土産で膨らんだリュックを枕にして佐世保までの航海を寝て過ごそうと瞼を閉じました。(そういえば耕平先生はカナヅチだったなあ・・・。さすがに海に落ちた僕はたすけてはくれないだろう。)僕の小さい身震いに呼応するように、いよいよ船の揺れは激しさを増しはじめました。

この文章は登校拒否・不登校問題全国連絡会ニュースNo.103号(2013年4月)に掲載されたもので、中村秀治さん本人の了解を得て転載しました。



### 登校拒否・不登校問題 第18回 全国のつどい in 北海道

わが子の登校拒否・不登校に悩む お母さん、お父さん、ともに悩み心をくだしているみなさん、北海道の大地で全国の仲間たちと、想いや悩みを語りあいましょう。

日時 2013年8月3日(土)～4日(日)

場所 帯広・音更町 十勝川温泉「大平原」(北海道河東郡音更町十勝川温泉南 15-1)

記念講演 横湯 園子さん (元中央大学・元北海道大学 臨床心理士)

現地実行委員会による専用ホームページ <http://zenkokunotudo2013.jimdo.com/>

チャオだより  
子ども&若者の居場所・就労支援・  
学習サポート

よろしかったら、少し  
元気になった子どもさ  
んに紹介してくださ  
い。



### 皮から作る餃子

久しぶりのお楽しみです

と き 5月17日(金)

9時半～

ところ 古賀ビル3階(橋通り東2丁目4-6)

参加費 実費 ♪みんなで楽しい試食会♪

### 利用の手引き

#### 居場所利用料

月額2,000円(毎週水・金 居場所であつたり。お楽しみ行事もあります)

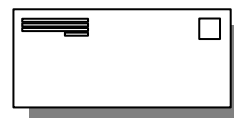
#### 居場所利用&就労支援(賃金あり)

#### 利用料

月額5,000円(毎月5000円程度の賃金になります)

## 就労支援【賃金あり】

### 印刷・発送作業



毎月第3木曜日、10時から

場所 市民活動センター[市民プラザ3階]

2時間程度。印刷、織り機を使って二つ折り、三つ折り。宛て名シール貼り。通信を袋に入れ、ノリ付け。切手貼り、投函。

作業を終えて、ほっとお茶を飲む時間もあります。

「できることから少しずつ」に挑戦してみませんか。  
お試しの方…賃金はありません。

### 物品販売



5月26日(日) 母親大会/バザール

マスク、手提げ、マフラー、お茶などの販売

### 農業体験



## 学習支援(個別)



時間は相談の上・訪問も可

「ここが分かれば、次のステップにいけるのに」  
そんな思いはありませんか。

「通信高校のこの単位が取れていない」

「高校卒業認定試験を受けたい」

そんな願いに応えます。

大学のご協力を頂ける見通しも立ちました。  
個別支援になりますので、安心して勉強できます。

“はじめの一步”始めませんか。

いつでもご相談ください。



## 春休みの来訪者

コスモス会は長い春休みをとりました。

そんな中、チャオ(子ども若者の居場所)を巣立った若者が遊びに来ます。

東京の専門学校に行ったYくん、Hくん。表情も、声もどこか大人びていました。

Kくんは大学を卒業して一年間アルバイトをしていましたが、東京の会社に就職していきました。

アルバイトに通ったこと、運転免許を取ったこと、一つ一つの課題を乗り越えたことが自信につながったようです。車の運転練習にはワーカーズコープさんがお付き合いました。ありがとうございました。

5月 親の会例会 は「親の体験を聴く」と総会を兼ねて行われます

5月11日(土) 13時~16時

体験談 田上貴志子さん[母親]

宮崎市民プラザ 4階 小会議室 (宮崎市役所隣り)

今後の例会等日程

5/11 (土)	5月例会 総会 13時 市民プラザ小会議室
6/8 (土)	6月例会 13時 市民プラザ小会議室
7/13 (土)	7月例会 13時 市民プラザ小会議室
8/3 (土) ~4 (日)	全国のつどいin 帯広
9/14 (土)	9月例会 13時 市民プラザ小会議室[予定]
10/12 (土)	10月例会 13時 市民プラザ小会議室[予定]
11/9 (土)	11月例会 13時 市民プラザ小会議室[予定]
12/ (土)	

訪問始めています。まずはご相談を。

ご希望の方は090-7458-0926 (亀田) まで。

4月・5月スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
14	15	16	17	18	19	20
		相談日	チャオ	発送作業	チャオ	
21	22	23	24	25	26	27
		相談日	チャオ		チャオ	まとめの実行委員会
28	29	30	5月1日	2	3	4
ゴールデンウィーク			チャオ ひきネット		ゴールデンウィーク	
5	6	7	8	9	10	11
ゴールデンウィーク		相談日	チャオ		チャオ	例会(体験談・総会)
12	13	14	15	16	17	18
		相談日	チャオ	発送作業	餃子作り	
19	20	21	22	23	24	25
		相談日	レストラン 樹樹 に行こう		チャオ	

2013年度の会費納入よろしくお願ひします。

年会費 2000円 おもに毎月発行のコスモス通信発行費に充てられます。

内訳(会費・寄付・その他)をお書きください。

郵便振替口座

口座番号 01780-1-132375

口座名称 コスモス会